

## 経営企画委員会・県外視察報告

### 1 調査日

令和7年8月5日（火）～令和7年8月7日（木）

### 2 出席委員等

八嶋 浩久委員長、種部 恭子副委員長、瀧田 孝吉委員、谷村 一成委員、  
澤崎 豊委員、山崎 宗良委員、井加田まり委員、山本 徹委員  
（その他、執行部が参加）

### 3 調査の概要

○令和7年8月5日（火）

#### (1) 松原公園津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」

調査項目：伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画について

応 対 者：伊豆市危機管理課

内 容： 2024年夏に整備されたこの施設は、東日本大震災時の津波による被害を教訓に、南海トラフ地震発生時の津波から、観光客が避難することを想定して建設された津波避難複合施設である。砂浜に3,000人が滞在時に発災することを想定し、津波到達時までに収容が必要だろうとシミュレーションされた人数である1,200人が避難できる。日常的には展望台や観光施設としての役割を果たすことで、利用そのもので地域の方や観光客の防災意識を高める効果が期待されている。



テラッセ オレンジ トイ

○令和7年8月6日（水）

(2) としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）

調査項目：防災・減災の機能を備えた都市公園について

応 対 者：東京都豊島区 公園緑地課公園管理グループ

内 容： この公園は、東京の池袋副都心の造幣局東京支局跡地に、豊島区と独立法人都市再生機構が2020年末に整備した、面積約1.7ヘクタールの防災公園である。

園内は、災害時にかまどとして炊き出しに使えるかまどベンチやヘリポートなどを備えており、救援物資の受け入れ・集配場所として機能することを想定している。また、防災樹を植樹して、円の南東側の木造住宅密集地の延焼防止といった防災機能も有している。平常時は区内最大の芝生広場やカフェがにぎわいを創出している都市公園である。



としまみどりの防災公園

(3) 群馬県庁

調査項目：新・群馬県総合計画策定経過について

応 対 者：群馬県 知事戦略部戦略企画

内 容： 群馬県では、2021年に県政を運営するための基本方針として「新・群馬県総合計画」を策定された。これは、2040年の目指す姿を描いた「ビジョン」と、これを踏まえて、2030年までに重点的に取り組む具体的な政策を体系化した「基本計画」の二段階で構成されている。

その「ビジョン」に示された、自分の頭で考え、他人が目指さない領域で動き出し、生き抜く力を持つ人を育成し、その人がさまざまな分野で活躍するとともに、「官民共創コミュニティ」の中核になっていくという好循環を作っていくことが群馬県に人々を惹きつける、という考えのもと、県庁32階に設置している「<sup>ネッゲン</sup>NETSUGEN」を視察した。

また、官と民との距離が近づき、双方向のネットワークづくりにとりくんでいく動画制作のスタジオとして同じく県庁32階に設置され

ツルノス  
たtsulunosも視察した。



議事堂 委員会室



県庁 32 階 tsulunos

○令和 7 年 8 月 7 日（木）

(4) 公立大学法人 前橋工科大学

調査項目：公立大学法人における地域連携活動—高大連携のコメ作り・6次産業化の取り組み—

応 対 者：公立大学法人 前橋工科大学  
工学部教授・研究室所属の学生

内 容： 前橋工科大学では、日本全国から学生を受け入れており、県外出身者は74%を占めている。視察に応対者である工学部教授とその研究室では、地域活性化課題を研究テーマとして募集し、調査研究を行っている。

これまで行った市民参加による駅まち計画・評価、新しいモビリティの社会実験・評価、農村と都市の交流活動、勢多農林高校と高大連携のコメ作り・6次産業化の取り組みについて紹介があった後、研究室所属の学生から発表があり、意見交換を行った。





公立大学法人 前橋工科大学

#### (5) 新町防災アリーナ

調査項目：大規模水害への対応として、防災機能を備えた体育施設について

応 対 者：高崎市 総務部

新町防災アリーナ（新町支所 地域振興課）

内 容：市民のスポーツ・レクリエーション活動を推進し、市民の交流促進や健康的な生活の充実を図るために設置された施設。災害時には防災拠点として活用することとされている。

全国でも類をみない体育館の外に設置されている避難スロープで、大規模な水害が起こった場合に、直接2階フロア及び屋上へと速やかな避難ができる。屋上にヘリコプターの緊急離発着場・最大3日間稼働可能な発電機がある。



新町防災アリーナ